

平成30年度事業報告

甲 寿 園

1. はじめに

平成30年度は介護報酬の改定が行われ、基本報酬があがることによってより質の高い介護サービスが求められ甲寿園では新しい加算の取得体制を整えました。

特養においては利用者の身体状態を維持し、一人ひとりの安心した暮らしを確保するサービス提供の在り方、短期入所・通所介護においては在宅でのより良い生活を長く続けるための介護サービスをどのように提供するかを職員と共に考えながら、取り組んでいきました。

これらの介護サービスを行う為必要な人材確保において、今年度甲寿園は厳しい状態が続きました。働きやすい職場づくりのため、公休数増の取り組みを行うなど法人と共に努めましたが、年度途中で各フロア間の介護職の人員配置のバランスが崩れその改善に多くの時間を費やしてしまう事となりました。そのような中で若手を中心に中堅の職員も加わり、介護技術の勉強会を自主的に開くという嬉しい活動も見られました。甲寿園の職員同士が利用者サービスの目的意識を持ち、各部署間での応援体制をとることで乗り切ることができました。運営の基礎となる、より良いサービスにつながる人材育成を並行して行うことの大切さも改めて痛感しました。

また全体のマニュアルの見直しを進めました。次年度整理を行い完成となります。

甲寿園地域貢献プロジェクト健康カルチャー倶楽部「ハイカラ倶楽部」の活動も地域の方を中心に広がりました。

2. 事業報告

1) 特別養護老人ホーム

入居目標数、利用率、入居者の介護度について入居計画委員会で検討し、効率よく速やかな入居を進めます。重度の方の受け入れも多くある為、環境の変化による入居後の入院・及び退所への対応も、多職種連携で行っていきます。

(ア) 特別養護老人ホーム（定員168名）の入居者は、年間を通じて1日平均164名 利用率98%を目標とします。入居計画委員会を毎月開催し入居予定を決定します。

利用状況 入居計画委員会（定期・随時）開催 15回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
1日平均	165.5	163	165.3	164.8	164.3	164.3	165.9	164.3	164.5	163.5	165.3	163	164.4	164.9
利用率%	98.5	97.0	98.4	98.1	97.8	97.7	98.8	97.8	97.9	97.3	98.4	97.0	97.9	98.2

利用者の介護度の状況

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
実人数	1	6	52	57	52	168
割合%	1	3	31	34	31	100

利用者の男女数

男 性 22 名	女 性 146 名	合 計 168 名
----------	-----------	-----------

待機者の状況

男 性 72 名	女 性 136 名	合 計 208 名
----------	-----------	-----------

⇒30年度計画において稼働率98%を目標としていましたが、今期は年間を通して97.9%という結果になりました。

平成30年度46名の新規入居者をお迎えし、同数の46名の方が退去されました。

退去された46名のうち、30名の方を甲寿園の看取りケアにてお送りしました。

今年度83名の入院者がおられそのうち62名の方が再入居されました。

入院先で逝去された方が8名、入院が長期化し再入居の見通しが見つからない方が6名おられます。退院後の再入居の方を含め入居調整のさらなる努力が必要となりました。

(イ) 入居者の重度重症化に対応します。(医療ニーズへの対応、終末期ケアの充実)

(ウ) 嘱託医師、常勤医師、看護師の連携により疾病を早期発見し治療につなげます。

⇒(イ)(ウ) 入居者の状態把握は看護・介護職員が行い、医師との連携のもと適切な対応を行いました。甲寿園看取りの指針に基づいて終末期ケア(看取りケア)を充実させました。

(エ) 介護職員を適切に配置し、職員一人ひとりが利用者サービスへの目的意識を持ち丁寧で優しい援助を行えるようにします。

⇒年度途中の退職者が8人おり介護職員の適切な配置が厳しい時期がありました。

3月末までには、中途採用者及び4月採用者を含め人員を確保し新年度に繋げる事ができました。

(オ) より良い介護を実現するために職員が意見を述べ、実践できるチームケアを確立します。

(お互いのサービスを認め合うサンキューカードの取り組みを継続します。)

⇒サンキューカードの取り組みを継続しています。施設の一階に固定した掲示場所を作りました。全職員への個人面談を行い個人目標の設定及び振り返りを行いました。

(カ) 園内異動を定期的に行う事により、フロアの活性化を図ります。異動時期は、4月～7月。(以外の時期において、フロア間の人員配置のバランスが崩れた場合は、園が一体となって応援体制を作ります。)

⇒年度途中でフロア間の人数のバランスが崩れた為、4月・7月の定期異動の他、他フロアへの出向を行いフロア間の人員バランスを保ちました。

(キ) 甲寿園のサービスを継続していくために、マニュアルの見直し、および、整理を「サービス向上委員会」を中心に進めていきます。

⇒次年度のマニュアル完成を目指して、進めました。

(ク) 感染症、食中毒の発生を防ぐため、感染対策委員会を隔月開催および必要時に随時、開催します。

⇒感染対策委員会を中心に、感染症及び食中毒発生の予防に取り組みました。

1月以降の職員インフルエンザ罹患及び利用者3名のインフルエンザ罹患者は発生しましたが、施設内での蔓延及び重症化を防ぐことができました。

(ケ) 入居者を安全に安楽に介護するために介護リフトの有効活用をすすめ、重度化にあった、

介護機器の導入と取り扱いの研修を進めます
 ⇒リフト取扱い研修を重ねることによって、各フロアでのリフトの有効活用が進みました。

2) 在宅支援課

地域の皆様にとって、甲寿園が「地域包括ケアシステム」の地域拠点となれるよう、今年度も取りくんでいきます。

にしのみや苑と、合同で行う第6回春フェスタを今年度も開催します。加えて3年前から甲寿園主体で取り組んできたハイカラ倶楽部（音楽療法）が、甲寿園の地域貢献として一定の成果を収めたので一区切りをつけ、今年度はハイカラ倶楽部を甲寿園主導から地域中心の取り組みに移行できるよう計画をしています。

これらの取り組みによって、甲寿園在宅支援課を地域の皆様や介護事業者に、より身近なものとして知っていただき、事業を運営していきます。

(ア) 短期入所生活介護（定員14名）

利用は、月平均15名、月平均110%の利用率を目標にします。特別養護老人ホーム併設の、メリットを生かし空床利用を行います。

作業療法士による、リハビリテーションの充実が、定着し利用者に好評を得ています。

介護者の病気や虐待などに対し緊急短期入所を積極的に受け入れます。

在宅での暮らしを支援するために、利用者とその家族の気持ちを尊重しつつ甲寿園を利用していただきます。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
1日平均	17.7	15.6	18.1	17.2	16.7	17.2	16.3	18.1	16.7	16.1	16.9	16.5	16.9	17.3
利用率%	124.3	111.4	129.3	122.9	119.3	122.9	116.4	129.3	119.3	115.0	120.7	117.9	120.7	123.6

緊急ショート利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
相談件数	4	1	1	3	1	4	2	2	1	2	2	1	24	36
緊急受入件数	2	0	0	0	1	3	2	1	0	1	0	1	11	13

⇒各月とも、110%の目標を達する事はできました。9、11月において特養の空床を有効的に活用する事ができましたが、年度後半の空床利用に課題が残りました。

緊急の相談件数は昨年度に比べ減りました。積極的な受け入れは継続できました。

個別機能訓練も継続できました。

(イ) 通所介護（定員30名）

今年度定員を28名から30名に増やします。利用は、1日25.5名、月平均85%の利用率を目標にします。

中重度の利用者への、介護、看護、リハビリテーションの環境を整えるとともに、総合事業利用者への援助の体制も整えていきます。

6月をめどに、個別機能訓練加算取得を行います。

甲寿園の通所介護サービスを希望する在宅高齢者の要望に速やかに応える体制を整え、ケアプランに沿った援助を行い、居心地の良い環境を整備します。

特養併設の利点を生かし、行事参加での生活の楽しみを多く取り入れます。栄養室と連携したクッキングや、日々のレクリエーションを充実させ、甲寿園通所介護で過ごしていただきます。

デイサービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
開所日	25	27	26	26	27	24	27	26	25	25	24	26	25.7	26.0
1日平均利用者	25.9	25.4	25.0	25.2	25.3	24.7	26.0	25.1	25.2	25.0	26.8	27.2	25.6	24.5
利用率%	86.3	84.7	83.3	84.0	84.3	82.3	86.7	83.7	84.0	83.3	89.3	90.7	85.3	87.5
介護予防(実数)	105	113	113	101	99	81	75	72	70	61	66	83	86.6	103

⇒利用定員を30名に増やしました。利用率85%は達成する事ができました。

6月より担当の機能訓練指導員を中心に個別機能訓練を始めました。

自宅での生活がより良くなることを目的とした、サービス提供を行いました。

(ウ) 居宅介護支援

昨年度よりメンバーの入れ替わりを行います。引き続き介護支援専門員3名を常勤配置し、特定事業所加算を取得します。

介護支援専門員1名あたりの件数（要介護35件、認定調査8件、介護予防8件）に対して、目標達成率85%とします。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年
ケアプラン数	85	86	97	98	105	102	99	100	99	104	109	106	99.2	55.4
予防プラン数	45	44	46	39	33	32	38	33	37	33	29	31	36.7	19.1
ケアマネ人数	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2

⇒今期はケアプラン件数が順調に伸びました。主任介護支援専門員を含む3名の常勤ケアマネと居宅介護支援事業所管理者0.2名の配置で、1名あたりの件数（認定調査を除く）が85%を超えました。

甲寿園地域貢献事業の柱である「ハイカラ倶楽部」を居宅介護支援を中心に在宅支援課で取り組みました。

3) 看護課

特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護の利用者の重度化に対応できるよう看護職員体制を充実させます。

- (ア) 入居者が安心して生活することができる健康管理・衛生管理を充実させます。
⇒特養・短期入所・通所介護それぞれの担当の看護師が、健康管理・衛生管理を行いました。感染対策等においては適宜園内外の感染の状況や予防対策の情報を発信し、利用者及び来園者の感染意識を高めていきました。
- (イ) 看護課長、主任を配置し、安定した看護体制を確保します。
⇒年度途中で看護課長が退職しましたが、その後も2名の主任を中心に安定した看護体制を維持する事ができました。
- (ウ) 常に現状に合った看護手順の見直しを行い、看護課全体で共有し統一した看護を行います。
⇒随時利用者の現状に即した看護手順の見直しが出来ました。

4) 栄養室

高齢者に対し安全で美味しい食事を提供します。利用者と共にを行う料理活動を通して、食の楽しさを広げます。

- (ア) 北山学園の給食管理業務を栄養室が受託します。
⇒引き続き受託しました。
- (イ) 食事委員会を隔月に開催します。
⇒「食事・褥瘡予防委員会」と名前を変更し隔月開催しました。
- (ウ) 厨房機器のメンテナンスを進めます。また、調理機材や食器を計画的に更新します。
⇒大きな故障は無く、最小のメンテナンスで収まりました。
- (エ) ソフト食の充実を図ります
⇒プリン・ゼリー食など、充実を図っています。
- (オ) 「利用者クッキング」を継続し、ともに作り、食するという取り組みを行います。
⇒29年度に始まった利用者クッキングは継続しており、第18回法人実践研究発表会で取り組みの発表を行いました。クッキングの一環として家族会用にクッキーを作り家族に試食してもらいました。
- (カ) 嗜好調査を行い利用者の楽しみである食事を充実させる努力をします。
⇒2月に嗜好調査を行い献立に反映しました。
- (キ) バイキング食や選択メニュー食、行事食など季節感のある美味しい食事を提供します。
⇒行事食、選択メニュー等で季節を感じて頂ける食事の提供を行いました。
- (ク) 栄養改善の取り組みをします。
⇒(イ)にもあるように、「褥瘡予防」という観点からも栄養改善についての取り組みを始めました。

5) 生活相談室

入居者、利用者、入居待機者、家族の相談の窓口として安心して頂ける対応をします。年間を

通じて安定した入居計画を進めます。

(ア) 特別養護老人ホームの入居待機者に対する面接を円滑に進め、安定した入居を進めます。

⇒入院された利用者再入居時の調整の遅れや年度後半に相談員の欠員が有り、安定した入居を進めることができませんでした。

(イ) 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院等を訪問し、甲寿園の各事業説明や入所申し込み説明を行います。

⇒各事業所への訪問等の回数を伸ばすことができませんでした。

(ウ) 入居待機者情報を適正に整備し、待機者に「甲寿園だより」などの情報を提供します。

⇒引き続き行っています。

(エ) 利用者の甲寿園での安心した暮らしができるよう、多職種連携の調整を行います

⇒利用者の生活を支える甲寿園の多くの部署間の調整を行っています。

(オ) 特別養護老人ホーム入居者の家族懇談会を4月中に2回、開催します。

⇒今年度は4月22日(日)に家族懇談会を開催しました。4つある特養のフロアをグループごとに分け、職員とご家族様がより身近に意見交換ができる場を設定しました。

6) リハビリテーション室

特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護でのリハビリテーションが充実した施設となるよう発展させていきます。

(ア) 療法士とリハビリテーション補助員各フロアのリハビリテーション委員が中心となり、利用者の生活リハビリテーションの充実を図ります。

⇒今年度からデイサービスの個別機能訓練も始まりました。特養・短期入所・通所介護と、機能訓練指導員がそれぞれ担当部署に分かれて、生活リハビリテーションの充実を図りました。

(イ) 作業療法士養成学校の実習生を受け入れます。

⇒2月に1名受け入れました。

(ウ) 短期入所生活介護事業の機能訓練を作業療法士が担当し機能訓練加算を取得します。

⇒短期入所生活介護における個別機能訓練加算を引き続き取得しました。

(エ) リフトの取り扱い、車椅子・ベッドでのポジショニング等、生活リハビリの研修を他職種に行います。

⇒新任職員及び中途採用者に対するリフト等の基礎研修を行いました。園内研修の一環としてミニ研修も行っています。

7) 設備用務室

日常的な建物、設備等の管理を適切に行い、保全メンテナンスに努めます。さらに甲山地区の各事業所と連携し、甲山地区全体の環境整備を行います。

(ア) 職員間の連携を強め、設備、環境面のメンテナンス業務を円滑に進めます。

⇒6月の地震、7月から続いた大雨・台風時において、設備職員が中心となり地震後の応急処置や災害への準備・対応をチームワーク良く行うことが出来ました。

居室内の壁・棚等の簡易な修繕も行いました。

(イ) 運転業務を安全に行えるよう安全運転教育を進めます。

(ウ) 設備、介護備品、車両の点検を行い、安全に使用できるようにします。

(イ) (ウ) ⇒外部研修として「福祉車両の安全運転講習」に参加しました。園内における安全運転講習会は下半期（12月22日）に開催しました。21人の参加がありました。運転前のアルコールチェック及び免許証携帯チェックを11月より始めました。介護備品の点検及び修繕を行い常に安全で使いやすい状態を保ちました。

8) 事務室

園の窓口として笑顔で礼儀正しい接遇を行います。

(ア) 職員間の連携を強め、勤怠、請求、経理などの事務業務を円滑に進めます。

⇒年度途中で事務員の法人間異動があり、正規事務員が1名減となりました。異動前後事務業務への影響を最小限にするため引き継ぎをきめ細やかに行いました。

2月にパート事務員の雇用を行いました。

(イ) 来客者、家族、利用者、入居者に対し、心地よい接遇マナーを重視します。

(ウ) 事務室を整理整頓し、個人情報管理を適正に行います。

(エ) 施設内の各部署の連携が円滑に進むよう、調整を行います。

(イ) (ウ) (エ) ⇒引き続き行いました。

9) にしのみや苑との連携を深めます

法人における高齢分野の施設として、お互いの事業運営を共同で推進できるよう協力を進めていきます。月に1回行われる甲山地区連絡協議会を中心に、管理者が連携を図ります。

(ア) 毎月、甲山地区連絡協議会を行い、高齢者介護事業の連携を図ります。

⇒月1回の連絡協議会において、各月のお互いの事業の報告を行い共有しました。

にしのみや苑・甲寿園が西宮市と連携を図り、10月25日には「福祉避難所」開設訓練を行いました。

(イ) 職員研修、交換研修を合同で行います。

⇒にしのみや苑との交換研修を行いました。

11月1日：にしのみや苑通所介護へ甲寿園より1名

11月12～15日：特別養護老人ホーム甲寿園へにしのみや苑より1名

(ウ) 各職種、業務の連携を進めます。

(エ) 入所及び在宅関連部署、栄養室、事務所等の情報交換及び連携を進めます。

⇒役職及び管理職間で情報交換や連携を進めました。

災害時に事業所としての対応の統一を行いました。

10) 研修・実習

高齢者福祉に携わる者として、日々、自身の介護を振り返ることは大切なこととなります。多職種が連携して行われる高齢者介護において、それぞれの職種の専門性を研修によって高め、お互いに知識を共有し補いあえるよう進めていきます。

近年、介護実習校の減少に伴い、介護実習の受け入れも少なくなってきました。それに代わり、未来の介護職につながるだろう、中学、高校生の体験及び、社会人の実習受け入れも、積極的に

行います。

(ア) 園内職員研修は、年間計画に沿って実施します。年間計画は、研修委員会が作成します。

⇒上半期「新任研修」・「事業方針説明」・「嚥下調整食を考える」・「緊急時の対応」・「吸引研修」・「認知症ケア」・「新任フォローアップ研修」・「メンタルヘルスケア」・「感染予防」「口腔ケア・リハビリ ミニ研修」 下半期には「園内実践研究発表」・「排泄ケア」・「リスクマネジメント(事故防止)」・「口腔ケアと誤嚥予防」・「身体拘束廃止（虐待予防も含む）」

の園内研修を研修委員会計画のもと、行いました。

(イ) 外部研修においては、高齢者介護における各専門分野についての学びを深めます。

⇒外部研修に参加して各専門分野についての学びを深めました。

(ウ) 研修後は、報告書等や、研修報告会により自ら研修をふりかえるとともに、園内に伝えていきます。

⇒研修報告等の回覧、及び報告会による、研修後の振り返りを行いました。

(エ) 職員は、社会性と専門性を高めるため自己研修制度を活用し研鑽に努めます。必要な資格を取得し、自らのキャリア・アップに努めます。(介護職員初任者研修・介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・社会福祉主事・認知症ケア専門士・商業簿記他)

⇒介護福祉士資格を1名が取得しました。

(オ) 実習受け入れは、福祉を志す人材を大切にすうえで、スムーズな受け入れを心がけます。

(カ) 実習指導については介護課長が中心となり、各フロアおよび、各部署の実習担当者が責任を持って行います。

(オ) (カ) ⇒介護課長を中心に、各フロア担当者が分担して受け入れました。

職員研修

	回数 (前年度)	参加人数 (前年度)
園内研修	14回・ミニ研修16回(36)	300(442)
外部研修	55回(59)	79(111)
自己研修	12回	7人(11)

実習生受け入れ

介護福祉士	初任者研修	相談援助	介護等体験	栄養士	トライやる
0名	0名	2名	24名	0名	7名

介護福祉体験	福祉授業	作業療法学科	薬剤師実習	看護実習
園田学園	西宮北高等学校	基礎臨床	西宮市薬剤師会	甲子園学院高校
79名	17名	1名	11名	0名
			合計	141名

11) 社会貢献、地域連携、情報公開、ボランティア支援

地域との関わりを常に重視し、市民の要望を聞き、高齢者福祉施設としての役割を發揮し社会貢献活動を進めます。

- (ア) 地域交流スペース、わいわい広場、アクティブルームの地域での活用を推進します。
六甲東山麓にある自治会と防災協力を行い、自治会の皆様に活用して頂きます。
⇒地域及び自治会の催し物以外の甲寿園のスペース使用が増えました。
9月4日に発生した台風21号の際、六甲東エリア連合防災会より、一般の避難者の受け入れの要請がありましたが、避難者はありませんでした。
六甲東エリア連合防災会による、勉強会及び防災訓練が11月11日に甲寿園ホール及び中庭で行われました。
- (イ) 福祉避難所としての役割を地域住民に周知していきます。
⇒にしのみや苑と合同で「福祉避難所」開設訓練を10月25日に行いました。
- (ウ) ボランティア活動に多くの市民に協力して頂けるようにします。ボランティア感謝の集いは、「歓びの会」(敬老会)と同時に開催します。
⇒9月17日に「歓びの会」を行い、ボランティア感謝の集いも同時に行いました。
- (エ) 市民向けの介護技術体験講座(ひょうごサポーター研修)認知症ケア(認知症サポーター養成講座)等の運営や、企画協力を行います。
⇒「ひょうごサポーター研修」を今期も11月に受け入れました。
- (オ) 地域の方の活動と触れ合いの場であるハイカラ倶楽部の内容を、地域の要望を聞きながら充実させていきます。
⇒今年度は地域貢献事業ハイカラ倶楽部を13回開催しました。地域の方にも講師をお願いし、「音楽療法」「踊り」「折り紙」「お菓子作り」「詩吟」「しめ縄づくり」「介護予防体操」等バラエティーに富んだ内容となりました。「ゲーム(麻雀)」など日頃一人ではできない活動など、参加者同士のつながりで継続開催が決まったものもありました。
- (カ) ホームページと甲寿園公式フェイスブックを毎月更新します。また、「甲寿園だより」の毎月発行を継続し「平成29年度事業報告集」を発行します。
⇒「甲寿園だより」を毎月発行し、ご利用者及びご家族に喜んで頂いています。
29年度事業報告集も、9月に発行しました。

12) 防犯・防災の取り組みを進めます

- (ア) 施設の入出口に防犯カメラ設置を継続し、防犯対策を進めます。
⇒2台の防犯カメラを設置し、防犯対策をしています。
- (イ) 北館側の土砂災害対策として、前年度に完了しました甲山地区落石等防護柵設置工事後も引き続き定期的に観測を行います。
⇒設備職員による都度の観測は続けています。7月の大雨の際、甲山地区落石等防護柵設置工事をした建設業者による北側斜面の巡回が行われました。
- (ウ) 鷲林寺地区の住民の災害時の避難所として自治会と共同して取り組みを進めます。
⇒六甲東エリア連合防災会が中心となり、取り組みを進めました。
- (エ) 要援護者の福祉避難所であり、西宮市と災害避難対策について協議します。
⇒西宮市との協議を行い、10月に西宮市総合防災訓練において、「福祉避難所」開設訓練を行いました。
- (オ) 防災訓練は年2回、にしのみや苑との合同防災訓練は1回実施します。
⇒6月13日、南館2階より出火想定での防災訓練を行いました。

8月6日、にしのみや苑と合同で夜間想定防災訓練を行いました。

10月10日、通所介護出火想定防災訓練を行いました。

(カ) 西宮市消防の合同訓練の要請があれば協力します。

⇒今年度要請はありませんでした。

13) 備品、設備、環境整備を行います

園の環境整備は、入居者だけでなく地域に開かれた施設として、市民に気持ち良く活用して頂けるようにします。

(ア) フロアの必要な居室等の環境修繕を計画的に進めます。

⇒設備職員により居室及び廊下・浴室等の修繕を行いました。

6月の地震による建物の亀裂等の修繕を行いました。

(イ) 特養フロア浴室(特殊浴槽)の更新を行います。

⇒10月南2・3階の特殊浴槽を更新しました。

(ウ) 入居者のベッド(低床)を更新します。

⇒8台更新しました。

(エ) リハビリテーションに必要な器具を購入します。

⇒リフト用スリングシートの購入及び車椅子購入をしました。

(オ) 厨房機器のメンテナンスを進め、必要な機材を購入します。

⇒厨房機器のメンテナンス及び機材購入は随時行いました。今年度は大規模な修繕はありませんでした。

(カ) 送迎車両の更新と新たに居宅介護支援事業用車両を購入(リース契約)します。

⇒送迎車両1台の更新と居宅用の車両1台を購入(リース契約)しました。

8月の台風により上記の居宅用車両を含む車両が水没し、新たに3台の車両のリース契約を行いました。

(キ) 屋上設置のキュービクルを更新します。

⇒関西電気保安協会と協議した結果、今期のキュービクル更新は行いませんでした。

(ク) 厨房床下配管、及び必要な個所の洗管を行います

⇒次年度の4月5日に行います。

(ケ) 利用者用大型洗濯機の更新をします。(リース契約)

⇒1月23日に洗濯機を更新しました。

(コ) タイヤ保存用物置(冬季スタッドレスタイヤ交換の為)を購入設置します。

⇒12月に購入し、設備職員が設置しました。

(サ) 屋上防水工事並びに外壁塗装工事に関し可及的速やかに改修をしなければならない部分について実施いたします。

⇒次年度実施に向けて、準備を進めています。4月に着工いたします。